



中部大学春日丘高校 SGH課題研究

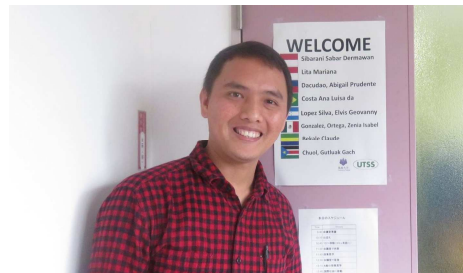
— 南タンゲラン国立第2高校の先生が来校 —

～ インドネシアについて知ろう! ～

● 交流プログラムの概略

- ◆ 日時: 2016年5月21日(土) 10:40~15:30
- ◆ 場所: 中部大学春日丘高等学校東校舎会議室、中部大学不言実行館コモンズセンターなど
- ◆ 参加者: 啓明コース2年生126名、国際コース34名、インドネシア研修参加予定生徒10名
- ◆ 来校者: サバル・シバラニ教諭(南タンゲラン国立第2高校、日本語教諭)

*昨年度9月より今年度3月まで、
国費で筑波大学大学院に留学中。
現在、筑波大学にて日本語、日本文化、
教育カリキュラム等を研修している。



- ◆ 南タンゲラン国立第2高校の紹介:

南タンゲラン市(首都ジャカルタから車で1時間半くらい)の国立校で、850名を超える日本語学習者がいる。南タンゲラン地方で一番の進学校である。日本語クラブ(約100名)や日本文化祭など、日本文化に関する活動を毎年行い、全インドネシア高校生日本語弁論大会・全国大会の優勝校でもある。校長先生(Dr. Neng; 女性)は日本語教育に非常に協力的で、訪日経験もある。インドネシア大学、ガジャマダ大学、バンドン工科大学等の有名国立大学に多くの生徒を送り出しており、優秀な生徒には特別な教育開発プログラムを提供している。約900名の生徒、教員数81名の大規模な高等学校である。

● 交流内容

■ 1. 「校長先生との対談」

来校されると、まずはご挨拶に校長室を訪れました。校長先生は、南タンゲラン国立第2高校の生徒たちの様子や日本留学中の日本の印象などについてお聞きになりました。

南タンゲラン国立第2高校は、九州とゆかりがあり、卒業生の何人かは九州大学やAPU(立命館アジア太平洋大学)へ進学し、また、すでに、九州の高校と交流をしているそうです。サバル先生自身も過去2度、生徒十数名を連れて1週間ほど佐賀県に滞在しています。今年もタンゲランの生徒たちは日本を訪れる予定だという話を聞き、校長先生は、「九州から東京へ向かう途中で、ぜひ春日井に立ち寄り、生徒を連れて春日丘を訪問してください。」とお話しされました。

その後、職員朝礼で春日丘の先生方へご挨拶をされました。とても流ちょうな日本語と、親しみやすい人柄からすぐに職員室の何人かの先生方と和やかな会話が始まりました。



■ 2. 「2年啓明コースの生徒との交流」 「3時限目」

司会生徒、神谷君の「スラム・シアン！」(こんにちは！)という掛け声に合わせて、126名が大きな声で挨拶をした後、サバル先生の講義が始まりました。サバル先生は、インドネシア語、英語、日本語を使いながら、インドネシアの「地理、言語、文化、学校教育」から、「自慢の食べ物や観光地」、「名物の交通渋滞」など、インドネシアの特徴について約30分のプレゼンテーションをしていただきました。生徒たちはメモをとりながら、楽しそうに聞いていました。

【質疑応答、生徒の感想】

「日本に来て、驚いたことはありますか？(生徒)

⇒ 「たくさんありますが、一番驚いたのは温泉に入るとき。何も着ないで、みなさんと一緒に裸で温泉に入るときはドキドキしました。」(サバル先生)

「ジャカルタに走っている日本の鉄道があると思いますが、インドネシア人から見た日本の鉄道はどうですか？(生徒) ⇒ 「インドネシアの技術はまだよくないので、日本の技術に感謝しています。」(サバル先生)

「日本で滞在してしばらく経つと思いますが、もしひとつだけインドネシアへ持って帰るとしたら何を持っていきたいですか？ 例えば東京タワーとか大きなものでも、仮に持っていけるとしたらどうですか？」 ⇒ 「日本の教育のいいところをインドネシアに持っていきたいです。」(サバル先生)

「東南アジアは今すごい発展をしていますが、インドネシアはどういう変化が起こっていますか？」(生徒) ⇒ 「今も発展していますが、若者が多いので、これから国が経済的にもっと良くなると思います。2050年くらいには、今の日本のようになるのではないのでしょうか。」(サバル先生)



■ 3. 「2年国際コースの生徒との交流」 「4時限目」

中部大学コモンズセンター(アクティブラーニング学習施設)で「グローバル課題研究」をしている「2年生国際コース」33名と合流しました。

2年生国際コースは「スーパーグローバルハイスクール事業の1期生」であり、春日丘の生徒たちの中で先駆けてインドネシアの学習をしています。サバル先生のプレゼンテーションを聞いた後、インドネシアのごみ処事情など、各生徒の個人研究テーマに即した質問を、個々にサバル先生に投げかけました。2年国際コース8名、2年啓明コース2名の合計10名が文部科学省の委託金のもと、8月にインドネシアを訪れます。在インドネシア日本国大使館、清水建設地下鉄工事現場、現地医療施設などの訪問に加え、南タンゲラン国立第2高校を訪れ、現地の高校生と交流する予定です。



■ 4. 「インドネシア研修参加生徒」との交流 [14:00~15:20]

After lunch, Mr Sabaru joined the group of 10 students who will visit his school this August. During the visit, Haruhi students are to participate in the local classes, and give presentations to each other for cultural exchange. In preparation for the visit, the students discuss what they can do for presentation, asking Mr. Sabaru for advice. Mr. Sabaru, who is very kind and friendly, gave advice to the students. They had a good time with Mr. Sabaru.

■ 5. 「南タンゲラン国立第2高校の生徒たちとの交流予定」について

- ① 2年生国際コースの生徒たちが、7月の授業でスカイプ(テレビ電話)を利用して現地高校生と交流する予定です。
- ② 代表生徒10名が8月10日に現地校を訪れ、授業に参加したり、「日本文化」や「課題研究」のプレゼンをする予定です。